

四国森林・林業研究発表会で発表

コウヨウザン ぼう芽更新等を

1月20日、四国森林管理局において四国森林・林業研究発表会を開催し、今回で3回目となるコウヨウザン試験地に関する発表をいたしました。（試験地は四万十森林管理署管内、^{からかわやま}辛川山国有林内に設定）

第1回（平成元年度）は「コウヨウザンのぼう芽更新」（当時 清水営林署）、第2回（平成30年度）は、「コウヨウザン3世代プロシエクトについて」（技術普及課）、第3回（今年度）は「コウヨウザンぼう芽更新の推移と天然更新について」（技術普及課）を発表いたしました。コウヨウザン第1世代は、昭和8年3月に植栽、昭和63年8月に皆伐（林齢57年生）・撤出、その後、ぼう芽更新した第2世代を平成30年2月に間伐（林齢29年生）、間伐木の伐根等から第3世代のぼう芽枝が生長し、樹高は2mを越えています（写真 令和2年10月現在）。



間伐実施後、3ヶ月が経過した試験地内で、コウヨウザン天然下種更新稚樹と遭遇、2年程が経過し、稚樹の生長が旺盛なことを踏まえ、天然下種更新試験地（照度別）を7カ所設定しました。その後、樹高、根元径の調査を継続中です。今年度の発表会で、以上の取組等について報告しました。

このコウヨウザンの課題を含めた全課題の発表要旨を四国森林管理局のホームページで公開中です。是非ご覧ください。

3月1日～5月31日

春期「緑の募金」強化期間

今年も、3月1日から5月31日までの間、「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに、春期「緑の募金強化期間」として、募金活動に取り組みます。

森林は、私たちの豊かな生活を支え、多くの恵みを与えてくれます。緑の募金を通して身近な地域や国内外の森づくりに繋がり様々な「森づくり・人づくり」活動の活性化に活かされます。

緑の募金活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。



知っ得 豆知識

「よみがえれ モンシロチョウ」って

「チョウチョ チョウチョ なの葉にとまれ・・・♪」と小学唱歌に歌われているのは、おそらくモンシロチョウ（写真上）を連想。

ところで、街の中でも春、白い小さなチョウをよく見かける。みなモンシロチョウでしょうか。

モンシロチョウはヨーロッパ原産、日本には中国大陸を経て入ってきたと。

幼虫はいわゆる青虫で、主にキャベツ・ダイコンなどの野菜類を食べて育つ。もっとも近年、キャベツ畑などが少なくなったので、その姿もあまり見られなくなった。

それにかわり黒いスジが目立つスジグロシロチョウ（写真下）がよく目立つ。スジグロシロチョウは、もともと日本にいたチョウで、林のへりなどうす暗い所で生活し、幼虫はイヌガラシなどの野草を食べて育つ。これらは、都会の道ばたなどにも生えていて、生活するうえで好都合なことも繁栄の原因なのではないでしょうか。

モンシロチョウを保護しようなどといいますが農家の方から叱られそうですが、街の中でしたら、愛の手をさし伸べても許されるでしょう。



（街の自然観察 矢野亮より）

編集後記

1月は行く、2月は逃げる、3月は去る。月日は足早に。「これから通る今日の道 新しい道 通りなおしのできぬ道」。3月も体調に留意し、一日一日を大切に。